

# ブルークロス調剤薬局 主催 講演会

## 変わりゆく薬剤師の仕事と役割 ～医学部定員削減とかかりつけ薬剤師～



平成27年12月20日(日)と23日(水)、ブルークロス主催の講演会が大阪と東京で行われました。講演会は3部構成になっており、1部では早川コミュニティサポート代表である早川茂氏による“今認知してほしいこと ～頭と心の筋トレ～”をテーマにした講演、2部では日本薬学生連盟によるワークショップ、3部ではブルークロス内定者の現役6年生と社員による講演、そして質疑応答がありました。反響は大きく、講演会終了後も質問が止まらず30分延長するなど大いに盛り上がりました。

## ◎早川コミュニティサポート 代表 早川茂 氏

タイトル 『今認知してほしいこと ～頭と心の筋トレ～』

内容 1.本人・家族の選択と心構え 2.すべては地域包括ケア  
3.人工知能・ロボットと薬剤師 4.注目！かかりつけ薬剤師！！

### 1. 本人・家族の選択と心構え

「自分の健康は自分で！」が、これからの医療の前提となります。  
厚生労働省は、「健康寿命をのばしましょう」をスローガンとしたスマートライフプロジェクトを立ち上げ、地域住民の健康づくりを促進しています。  
地域住民が人生最後まで元気に健康で楽しく生活を送れることを目標にした国民運動です。私もこのプロジェクトに参加し、日々健康管理をしています！  
また、万が一、健康を崩した時は、信頼できる「かかりつけ」の医療従事者を選ぶ環境ができつつあります。

### 2. すべては地域包括ケア

介護からスタートした「地域包括ケア」が、今ではあらゆる国策の根幹に置かれています。現在の医療パラダイムシフトも、この「地域包括ケア推進」のためです。学生のみなさんが社会に出てくる頃には「地域包括ケア」の環境です。この本質を知り、その中で活躍する薬剤師を目指していただければと願っています。



### 3. 人工知能・ロボットと薬剤師

これからあらゆる職場に、優秀な人工知能につながったロボットが導入されます。

人工知能の得意分野と限界を知り、みなさんは「人」にしかできない領域での活躍が期待されています。

「疾患」だけでなく「病い」に目を向け、数値化できない「人」の痛みも分かる、薬のプロ、医療人、そして人間性の高い社会人に成長してください。



### 4. 注目！かかりつけ薬剤師！

以上のようなことを深く意識できる「薬剤師」が求められ始めました。ずばり！「かかりつけ薬剤師」。薬局薬剤師のみがトライできる、これからの医療の中核を担う役割が用意されています。一人でも多くの学生さんにトライしていただければ幸いです。



◎早川コミュニティサポート 代表 早川茂 氏

●最新の情報を共有して頂いてます。参考資料は以下のアドレス等を参照してください。

[1]かかりつけ薬剤師とは

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000093568.html>

[2] 地域包括ケア

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/kaikaku.html>

[3] 患者の為に薬局ビジョン

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000102179.html>

[4] 診療報酬改定

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000106421.html>

[5] ibm 人工知能 ワトソン君

<http://www.ibm.com/smarterplanet/jp/ja/ibmwatson/>



## ◎日本薬学生連盟(APS-Japan) 主催 ワークショップ

日本薬学生連盟は薬学生約700人が所属する団体です。  
東京、大阪それぞれ異なるテーマで行われました。

東京:「薬学生、薬剤師として解決すべき社会課題へのアプローチ」

大阪:「町で一番人気の薬局になるためには?そのためにはどのような薬剤師になるべきか?」

APSの学生が仕切り、盛り上げていました。

大阪会場に参加したAPS代表である、大阪大谷大学3年生の西山杏夏さんは、「私たち薬学生には、『かかりつけ薬局・薬剤師』が少しずつではありますが身近な言葉となってきました。将来、どのような薬剤師になると良いか考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。全体を通し、町で1番になるためには、知識のみならず、相手に寄り添って考えることの必要性も見いだせたワークショップになったと考えています。」  
という感想でした。

東京講演会に参加したAPS代表の慶應義塾大学4年 稗谷隼世君は「日本薬学生連盟は『薬学生、薬剤師として解決すべき社会課題へのアプローチ』をテーマにワークショップを行いました。早川氏による講演からもあったように、これからの医療には答えのない課題についての議論が求められてきます。本ワークショップはグループ内で学年を超えてそうした議論を交わし、薬剤師として将来どのように医療に貢献できるかを考える良いきっかけとなったのではないかと思います。」  
という感想でした。



## ◎ブルークロスの講演

初めに「内定者が語る就活の実態～あなたは見抜けるのか～」というテーマのもと大阪で1名、東京で2名の内定者が講演を行いました。

就職活動をしていく中で、なぜ薬局薬剤師としてブルークロスを選んだのかを発表してもらいました。

3人に共通していたのは、色々な職種のインターン・説明会に積極的に足を運び、自身の将来設計と照らし合わせ、これを実現するためにはどういう会社なら良いのかを考えて決めたという点です。

数多くある就職先の中から1つを決めるのは大変なことです。インターンシップに参加して現場の雰囲気を感じ取ることが、就職先を選ぶうえで重要であると3名は述べていました。

次に、ブルークロス社員の国家試験対策委員は国家試験合格基準改定について講演を行いました。

今までは全体の65%以上の点数があり、かつ各科目の足切点を超えている事が条件の絶対基準でした。しかし、この方法では年によって合格者数や合格率のブレが生じてしまうため、第101回より絶対基準ではなく相対基準で合格者を決めていく事になりました。また、必須の足切点を下げ、一般では足切点がなくなりました。一部分が足切に引っかかったからと言って薬剤師の素質がないとは言い切れないためです。

以上の点から、論理的思考力が問われる問題や実践的な問題が増えてくると思われます。

また最近の国家試験の問題には、時事知識を問われる問題も増えているため、5年から6年の夏までに医療業界で話題になったことも頭に入れておくの良いと思われます。

全講演終了後の質疑応答は、時間内に終わることが困難なほどに盛り上がりを見せました。



## ◎感想

これからの医療、薬剤師は「今までこうだったから、、、」だけでは全く通用しないということを強く感じました。また、ロボット化について今まで抵抗がありました。が薬剤師の職能を発揮するためには必要なことだと思えるようになりました。  
(東京講演会参加 大学4年生 女性)

今後の医療の形、薬剤師のなるべき姿が変わっていくということをととてもよく理解することができました。まだ2年生ではありますが、これからの自分の将来の参考にしていきたいと思います。  
(東京講演会参加 大学2年生 男性)

早川先生のお話では今後私たちを取り巻く環境がどのように変化していくのかを教えていただき非常に参考になりました。また、他大学の学生さんとの意見交換もでき、よい経験になりました。  
(大阪講演会参加 大学5年生 女性)

普段大学の中では感じる事ができなかった、知らなかったことを知ることができました。一番びっくりしたのは人工知能にシフトしていくということに驚きました。ロボットにできないことをできる薬剤師になりたいと思います。  
(大阪講演会参加 大学3年 女性)

参加全ての学生が大変満足していました。正しい情報を得て自分の将来に役立てていきましょう。

**一流の薬剤師になろう！**